
緋弾のARIA書籍3冊刊行記念&夏コミ新刊漫画原作SS

遊び人レベル世界 3 位

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア書籍3冊刊行記念& a m p ;夏コミ新刊漫画原作SS

【Nコード】

N9312R

【作者名】

遊び人レベル世界3位

【あらすじ】

模擬戦の結果に落ち込んでいるアリア。

その様子を見てもらえないあかりはアリアを元氣付ける方法を友達に相談します。

あかりはアリアを元に戻す事ができるのか？

来月からアニメも放送開始。

大人気『緋弾のアリア』のSSです。

・
・
・

・
・
・

・
・
・

「どうも、毎度おなじみ、天作知之だよ。

さてさて今日もまたボクの登場という事でSSみたいだね。

今回の話は緋弾のアリアAAの主人公のあかりが、

アリアを励ますお話みたいだね。

原作小説の4巻のあたりみたい。

それじゃあ今回もSS楽しんでいただけると幸いです」

「あ、あのアリア先輩・・・」

私は春に奇跡的に戦姉妹になれたアリア先輩に話しかけました。

7月1日。

私は強襲科の授業で信じられない光景を目の当たりにしてしまいました。

その日アリア先輩は札幌武偵高から来た人と模擬戦をやりました。

他校の生徒との模擬戦事態は珍しいことではないのですが、問題はその結果。

負けた事を見たことがないアリア先輩が完全に押されていたのです。

途中で乱入した婦警さんが試合を中断してしまったのだけど、

あのまま続けていたら結果は・・・

アリア先輩は事実上負けたショックからかなり気落ちしていました。

そんなアリア先輩を私は見ていられなくて励まそうとしました。

「私が言うのも何ですがどうか元気出して下さい・・・」

しかしあまり効果がなかったみたいです。

アリア先輩は返事はしてくれただけど、

いつもの明るい先輩に戻るような事はありませんでした。

むしろ・・・

「そっか・・・あの試合あかりにも見られちゃったんだね・・・

みつともないところ見せちゃってごめん・・・」

もつと落ち込ませることになっちゃったみたい。

どうしよう・・・

「はあ・・・」

武偵高の自分の教室で私は悩んでいました。

「あかりちゃんどうしたの？」

ため息なんかついて・・・」

「ため息をつくると幸せが逃げるぞ」

そこに友達の志乃ちゃんとライカがやってきました。

「志乃ちゃん、ライカ・・・」

私は顔を上げます。

「私でよろしければ相談に乗りますよ」

「志乃ちゃん・・・」

「まあ体型や期末試験の事だったらどうしようもないけどな」

ライカもいつもどおり冗談を言いつつも、気を遣ってくれます。

私は二人に相談することにしました。

「やっぱりその件ですか・・・」

「でもそれってあたし達になんとかできる問題じゃないよな」

二人とも真剣に考えてくれているのですが、

いい案は浮かばないみたいです。

「でも、私アリア先輩が落ち込んでる姿を見てられなくて・・・」

「うーんじゃあさ、

気晴らしにショッピングにでも誘ってみる、ってのはどうだ？」

「それいいかもしれませんね。

もうすぐ夏祭りもありますし、

浴衣や水着なんかを見てきたらどうですか？」

「うん・・・いいかも。

早速今日帰ったら誘ってみる！

二人ともありがとう」

「がんばって下さいね。」

あ、でも今日はやめたほうがいいかもしれませんよ」

「え、何で？」

「もうすぐ期末試験だろ。」

ずいぶん余裕だな」

「あ、忘れてた・・・」

私は期末試験という難関があるのをすっかり忘れていました。

「アリア先輩！私とショッピングに行きませんか！？」

期末試験もなんとかパスした私は、

アリア先輩を買い物に誘いました。

気合いを入れて誘った私に少し驚き目を丸くしたアリア先輩。

でも次第にいつもの優しい顔に戻って答えてくれました。

「どうしたの？急に」

「ほら、期末試験も終わりましたし、息抜きにパーツと」

「んゝそうね、たまには息抜きも必要ね」

「やったゝじゃあ早速行きましょう!」

「あ、ちょっと・・・」

私はアリア先輩の手を引いてお台場に向かいました。

お台場に着いた私たちは洋服屋さんに入りました。

アリア先輩は店を見回します。

「あ、水着がありますよ!

試着してみましようよ」

「へえ、これなんかあかりに似合いそうじゃない?」

アリア先輩が水着を選んでくれます。

「どれですか?

あ、かわいいですね・・・

ちょっと試着してきます!」

私は早速試着してみました。

「うん、似合ってる」

アリア先輩が褒めてくれます。

「じゃあこれにしちやいます!」

私はそう言つと制服に着替えなおして、

その水着をレジに持っていこうと思ったのですが、

このショッピングの目的を思い出します。

あたしだけ楽しんじゃだめじゃん!

むしろアリア先輩に楽しんでもらわなきゃ!

途中で止まった私にアリア先輩が話しかけてくれました。

「急に止まってどうしたの?」

「じゃあ次は私がアリア先輩の水着を選びますよ」

「え、ええ?」

「私だけ選んでもらうわけにもいきませんから」

「い、いいわよ、アタシは」

「いいえ。」

今日はアリア先輩に楽しんでもらうんですから！

あ、これなんかどうですか？」

「ビ、ビキニ！？

こういうのは胸の大きな人が・・・」

「いいえ！アリア先輩に絶対似合うと思うんです！」

「うーん、そうかしら・・・」

私が力説するとアリア先輩は悩んでたみたいですけど、勢いに負けてその気になってくれたみたいです。

「わかったわ、着てみる」

こんな様子で私たちはお互いの水着や浴衣を選んだり、お茶をして帰ってきました。

「あかり、今日はありがとうね」

部屋に戻ってきてアリア先輩がお礼を言ってくれました。

「アタシが落ち込んでたから今日誘ってくれたんでしょ？」

「はい・・・」

「ふう。妹に心配されてるようじゃ姉失格ね」

「アリア先輩・・・」

私には励ますくらいしかげきませんけれど・・・」

「ううん。そんなことない。

落ち込んでいる人の為に何かできるってすばらしい事だと思うわ。

アタシ、アンタと戦姉妹になってよかったわ」

「アリア先輩・・・」

「これからもよろしくね、あかり」

「はい！」

あたしは元気よく返事をした。

End

どうも～遊び人です～

「ついに自分のハンドルを略すようになったね」

最初の突っ込みソコか。

「まあどうでもいいけど。」

それじゃあ早速いつもの」

今回の反省は下調べ。

お互いの一人称や二人称が違ってるかも・・・

その辺まだアリアはまだ調べきつてないからね。

まあ今回はアリアとあかりしか出てこないけど。

背景としては、夏コミ用というのと、

AAの連載始まったときに、クオカード全員サービスがあったんだよね。

その時2回目は水着のイラストだったんだ。

それで今回その水着を選びに行く話を考えてみたんだよね。

「雑誌の全プレからのネタなんだ」

うん。

さてそれじゃあ今回はちょっと短めだけどそろそろ閉めようか。

「ういす。それじゃあボクはまた次回」

アニメも後2週間で始まる緋弾のアリア。

これからプッシュしまくるので皆様よろしく願いします^^

それでは本日はこの辺で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9312r/>

緋弾のARIA書籍3冊刊行記念&夏コミ新刊漫画原作SS

2011年3月29日21時28分発行